

【工夫のポイント】

- ほ場整備の実施により、法人を中心とした担い手に農地を集積・集約。
- スマート農業技術の導入により、農業生産の省力化、安定した収量・品質の確保。
- 加えて、障がい者施設と連携し、雇用を確保（農福連携）。

【取組地域の概要】

- 位置 やまぐちし
山口県山口市（過疎、特農、山村）

ふたじまにし
二島西地区

山口県

- 主要作物
・水稲、麦、大豆、飼料作物、
キャベツ、タマネギ、ニンジン 等

- 主な支援施策
・農業生産法人等育成緊急整備事業
・農業競争力強化基盤整備事業（経営体育成型）

(H19～H31)

基盤

大区画化・水田高機能化による労力軽減と高収益作物の導入

基盤整備により、大型機械を導入し生産コストの低減を図るとともに、水田の高機能化により高収益作物の導入を実現。



大区画化されたほ場（整備後）



大型機械による収穫状況

基盤整備
(H19年～H31年)

【整備前】

干拓地域の整形田であるが狭小なほ場であり、排水性が悪く、畑作物の作付けに支障が生じている。



狭小なほ場（整備前）

生産現場

高収益作物への転換とスマート農業技術の導入

- キャベツ等の高収益作物に取り組み、土地利用率150%を達成。
- 食味収量センサー付きコンバインを導入し、ほ場毎の収量・食味等のデータを経営・栽培管理システムに送り、生産状況の見える化を推進。



担い手

地域を支える担い手法人の設立

- ほ場整備を契機に農事組合法人「二島西」を設立（組合員数146名、経営面積135ha（H31.2））。

地域の取組

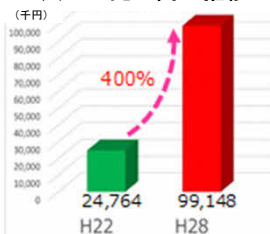
障がい者施設との連携（農福連携）

- 障がい者の自立と併せ、農繁期の労働力不足解消のため、キャベツ等の収穫補助作業を障がい者施設に委託。

農業の競争力強化と農福連携による新たな地域作り

- 畑作物（キャベツ、麦等）の生産拡大により、法人の農業売上高が増加（約4倍！）。
- 食味収量センサーにより、収穫と同時に収量・タンパク含有率・水分率をほ場毎に情報整理。情報の分析により、農作業時期や施肥量等を見直し、コスト縮減と品質の向上を図る。

<法人の売上高の推移>



<凡例>

	単収	タンパク含有率
■	300kg/10a以上	12%以上
■		12%未満
■	300kg/10a未満	12%以上
■		12%未満



- 障がい者施設と連携し、障がい者の適性を生かしつつ、労働力を確保。
(H30: 延べ3,643人/年)



障がい者による収穫作業